

(6) 展開

◎研究主題との関連 ○人権教育上の配慮

学習活動	形態	時間	教師の支援と留意点	資料	評価（評価方法）
1 学習内容と目標の確認 交流から生まれる鑑賞 見る・考える・話す・聞く	一斉	5	◎美術作品の鑑賞方法は様々だが、今回は自分なりに思ったことや感じたことを大切にすることを伝える。 ・教師の体験談なども交え、後で生徒が積極的に発表しやすい雰囲気を作る。 ・自己評価表を使って、学習目標（＝評価の観点）を明確にする。	自己評価表 ビデオ	
2 作品鑑賞 ・1枚の絵画作品を鑑賞し、その第一印象（自分なりに感じたこと・思ったこと・分かったこと）を鑑賞カードにまとめる。	個別	5	・本物の大きな絵画作品を用意し生徒の興味を高める。 ・生徒の様々な意見が引き出しやすい、半抽象で部分的に見ることも出来る作品を用意する。 ○後で全員の生徒に意見を発表させるため、第1印象は短い文章でまとめさせる。 ◎第一印象が思いつかない生徒に対しては、作品を見て分かったこと（形や色）についてまとめるように助言する。	鑑賞作品 鑑賞カード	
3 意見発表 ・机、椅子を後ろに寄せて、作品の近くに集まり、座談会形式で第一印象を発表する。	座談会	20	・作品の細かい部分までよく見えるように、生徒を作品の近くに集める。 ◎◎ ◎似たような意見でも全て自分の言葉で発表するように助言する。 ○生徒から出された意見は、全て肯定的に受け止める。		B 自分の考えを発表することができる。 A 自ら挙手して、自分なりに感じたことや思ったことを友達に分かりやすく発表することができる。 (観察・ビデオ分析)
4 考えを深める ・第一印象を基に考えを深める。(なぜそう思ったの・どこを見てそう思ったの)	座談会	15	◎◎友達の意見も参考にしながら部分的に見たり、色について考えたり、視点を変える方法を助言し、更に考えを深めるようにさせる。		
5 まとめ ・深めた考えを、鑑賞カードにまとめる。 ・自己評価表をまとめる。 ・鑑賞について	個別 一斉	5	・最終的な感想も、答えはひとつではないことを確認する。 ・本時の活動を振り返り、自分に正直に自己評価させる。 ◎今回の授業は、単に将来美術館に行つて作品を鑑賞するときのために行つたものではなく、「生きる力」を育む様々な要素を持っていることを確認する。	鑑賞カード 自己評価表	B 自分なりの感想をまとめることができる。 A 自分の意見と友達の見解を対比しながら深めた考えをまとめることができる。 (鑑賞カード分析)